

令和8年度 市民提案型協働事業

会津の農地と農家を若者がつなぎ、 農業の未来をつくる

— 遊休農地の再生 × 若者の参画 × 有機農業への橋渡し —

提案団体 特定非営利活動法人 NSK_AIZU

会津大学発ベンチャー | 理事長 多田 旭志

本日本日お伝えする5つのこと

協働パートナー選考審査会実施要領 第3項に準拠

1	団体紹介	主な活動・業務内容、これまでの実績
2	公共的課題への認識	なぜ今、会津の農地に向き合うのか
3	目標とする成果・効果	どこまで達成するかを数値で示す
4	目的達成の手法	ノウハウ・人員体制・スケジュール
5	市との役割分担	協働の具体的なかたち

私たちは、会津大学発のNPO法人です

学生が主体となり、会津の地域課題に向き合う非営利団体

団体プロフィール

正式名称	特定非営利活動法人 NSK_AIZU
代表者	理事長 多田 旭志
設立年月日	2025年12月2日（令和7年）
所在地	会津若松市八角町3番17号
正会員数	21名（会津大学の学生が中心）
役員構成	理事長1・副理事長2・監事1（計4名）
活動地域	会津若松市
連絡先	nsk.aizu@gmail.com

ミッション

遊休農地を活かし、
若者と地域をつなぎ、
会津の農業の未来をつくる。

定款第3条より要約

主な活動・業務内容

定款で定める4つの事業で、地域に貢献します

01

耕作放棄地の利活用事業

遊休農地の再生・管理を通じ、景観形成と農業振興に寄与

02

地域活性化事業

若者の参画を通じ、地域コミュニティの再生・交流を促進

03

農業分野での人材育成事業

学生・若者への実践機会提供。将来の担い手育成を支援

04

情報発信・普及啓発事業

SNS・公開講座・広報等で成果と課題を地域に還元

これまでの実績

短期間ながら、具体的な事業採択と発信活動を積み重ねています

2025.12 ● NPO法人 NSK_AIZU 設立

会津大学発ベンチャーとして発足。正会員21名体制。

2026.02 ● 会津大学 公開講座

会津における農業・地域課題をテーマに成果発信。

2026.03 ● 福島県サポート事業 採択

「会津若松市における地域と農地の活性化事業」として¥500,000の内示を受領（河東町での展開）。

2026.04 ● 市農業委員会と事前協議

本事業の対象農地・引継ぎ候補について複数回の打合せ実施。

会津若松市の農が直面する現実

人と農地、そして若者との接点が、同時に失われつつあります

【私たちの課題認識】

会津には、荒れていく農地と、
それを引き受ける担い手と、
地域に根を下ろしたい若者がいる。

この三つが「出会えていない」ことこそが、
私たちが解こうとする公共的課題です。

農地の荒廃

市内で遊休農地が拡大。景観悪化・鳥獣害の温床にも。

担い手の不足

新規就農者の確保は急務。

若者と農の断絶

学生・若者が農に触れる機会がなく、次代の担い手との接点が失われている。

なぜ市との協働が必要なのか

NPO単独では届かない領域に、市の力が不可欠です

NPOが得意なこと

- 学生ボランティアの動員
- 現場作業
(耕起・播種・管理)
- SNS・広報・記録・発信

市・農業委員会が得意なこと

- 遊休農地の把握・紹介
- 地権者との調整・信頼関係
- 農地利用の行政手続・助言

協働だから実現できること

- スピード感ある合意形成
- 担い手への確実な引継ぎ
- 地域への説得力ある発信

本事業の目的

三つの断絶を、一つの循環につなぎ直す

遊休農地を再生し、若者の手で耕し、担い手農家へ引き継ぐ

Revitalize × Involve Youth × Hand over to Farmers

1

農地を活かす

市と農業委員会の協力のもと
遊休農地を再生。景観と生産
の両面で地域に還元。

2

人をつなぐ

会津大学の学生が主体となり
、若者と地域・農家の接点を
継続的に生み出す。

3

未来へ渡す

有機農業への橋渡し役として
、再生した農地を担い手農家
へ確実に引き継ぐ。

数値で示す成果指標

定量的に達成を検証できる3つのKPI

5a

以上

遊休農地の再生面積

連続する1圃場を基本とし、栽培から引継ぎまで一貫して管理

1

名

有機農家への引き継ぎ

事業終了時点で、再生農地を継続耕作する担い手を確定

100

名

若者の参画 延べ人数

会津大学の学生を中心に、延べ100名以上の参加を目標

事業の全体像

緑肥で土を育て、食用作物で地域を巻き込み、有機農家へ引き継ぐ

STEP 1

土づくり

草刈り／耕起。小型耕運機を活用し学生ボランティアが対応。

STEP 2

緑肥 × 景観

クロタリリア・ソルゴー・ひまわりで土壌改良と景観形成。

STEP 3

食用栽培

枝豆・さつまいも・大根を栽培。収穫祭で地域に還元。

STEP 4

引き継ぎ

農家へ引継ぎ。有機農家でも引き継げるように化成肥料不使用で行う。

POINT 有機JAS転換を意識し化成肥料は使用せず、完熟堆肥・油かす・米ぬかぼかし等を活用

団体のノウハウをどう生かすか

会津大学発ベンチャーならではの3つの強みを事業に投入します

① 若者を動かす力

会津大学の学生が運営主体

- 既存の学生コミュニティをそのまま動員基盤に活用
- SNSを通じた効率的な募集
- ICTに強い人材が記録・可視化を担当

② 地域との信頼関係

農業委員会との事前協議済

- 対象農地について複数回の打合せを実施
- 地権者から採択後の内諾見通しあり
- 市内事業者・地元農家とのネットワーク保有

③ 事業運営の実績

福島県サポート事業 採択

- 「会津若松市における地域と農地の活性化事業」で500,000円内示
- 河東町での先行展開の知見を本事業へ継承
- 定款・会計・報告体制など法人としての基盤を整備済

人員体制

少数精鋭のコア運営チームと、延べ100名のボランティアで回します

コア運営チーム（3名）

理事長・副理事長2

現場責任者

栽培計画・スケジュール管理。農業委員会との窓口。

広報・記録班

SNS運用・記録写真・収穫祭運営・事業報告書作成。

ボランティア統括

学生の募集・シフト管理・保険手続・安全管理。

支援層：会津大学の学生ボランティア（延べ100名）／市農業委員会／地権者／引継ぎ先農家

年間スケジュール

5月～翌2月の10か月で完結。市の事業期間（2月末）内に全工程を実施

① 準備・同意取得

② 播種（緑肥・食用）

③ 生育管理・中間イベント

④ 収穫祭・広報

⑤ 有機農家への引継ぎ

⑥ 報告書



NPOと市農業委員会の役割分担

互いの強みを活かした明確な分担で、事業を確実に前進させます

NPO法人 NSK_AIZU

- 農地での作業全般（耕起・播種・管理・収穫）
- 会津大学学生ボランティアの募集・運営
- SNS・広報・収穫祭の企画運営
- 有機農家との引継ぎ調整・圃場データ記録
- 資材調達・予算管理・事業報告書作成

会津若松市（農業委員会）

- 対象となる遊休農地のご紹介
- 地権者との調整・同意取得のサポート
- 農地利用に関する行政手続の助言
- 成果発表会・地域連携の場のご提供

予算（総額 500,000 円）

申請額の上限で申請。人件費は計上せず、透明性を確保

総事業費

¥500,000

学生ボランティアを基本とし、
効率的に事業を設計

費目	金額	主な内容
消耗品費	¥320,000	種苗・有機肥料・栽培資材・燃料・ボランティア消耗品
その他	¥110,000	トラクター借上（3日）・ボランティア保険（100名）
通信運搬費	¥40,000	大型資材の業者配送
印刷製本費	¥30,000	チラシ・看板・SNS資材・報告書

※ 人件費は計上せず、学生ボランティアを基本とする

事業は「引き渡して終わり」ではない

採択年度で完結せず、自走・発展・他地区への展開へ

継続性

引継ぎ後も伴走する

- 年1～2回の圃場訪問と記録共有
- 繁忙期の学生ボランティア派遣

発展性

次年度以降、自走する

- 収穫物販売・収穫祭で自主財源化
- 学生主体で持続する運営体制
- 対象農地を段階的に拡大

参考性

協働モデルを横展開

- 会津若松市の他地区への展開モデル提供
- 広報による発信

会津の農地と農家を、 若者がつなぐ。

その一歩を、会津若松市との協働から始めさせてください。

NPO法人 NSK_AIZU | 理事長 多田 旭志

ご清聴ありがとうございました